

Title	男子テニスATPツアー初優勝時の年齢に関する分析
Sub Title	An analysis of the age of the first victory in men's tennis ATP tour
Author	坂井, 利彰(Sakai, Toshiaki)
Publisher	慶應義塾大学体育研究所
Publication year	2018
Jtitle	体育研究所紀要 (Bulletin of the institute of physical education, Keio university). Vol.57, No.1 (2018. 1) ,p.1- 7
JaLC DOI	
Abstract	<p>On July 1, 2017, Japanese player Yuichi Sugita claimed a victory at the Antalya Open in Turkey. It was the first ATP title for the 28-year-old, who was ranked number 66 in the world at the time. It also marked his tenth year on the tour after turning a professional while still being a university student. His achievement demonstrated the possibility of traversing a different career path than a conventional one which is focused on nurturing elite players during their teen years. Hence, the purpose of this quantitative analysis is to further investigate the relations between a player's first ATP tour victory and his chosen career path.</p> <p>Having compared the rankings of players according to the age at which each player won their first ATP tournament, the study found that players who claimed their first tour victory at 25 or above do not necessarily rank lower than players who won their first title between 21 and 24. In fact, in most cases, players in the former group even go on to enjoy longer professional lives than those belonging to the latter category. This is primarily due to the fact that the large number of ATP points earned through a tournament victory can propel a player to a much higher ranking, giving him a better place in later competitions as a result of the way the ATP tour is structured.</p>
Notes	
Genre	Departmental Bulletin Paper
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00135710-00570001-0001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00135710-00570001-0001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the Keio Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

# 男子テニス ATP ツアー初優勝時の年齢に関する分析

坂井 利彰\*

## An Analysis of the Age of the First Victory in Men's Tennis ATP Tour

Toshiaki Sakai<sup>1)</sup>

On July 1, 2017, Japanese player Yuichi Sugita claimed a victory at the Antalya Open in Turkey. It was the first ATP title for the 28-year-old, who was ranked number 66 in the world at the time. It also marked his tenth year on the tour after turning a professional while still being a university student. His achievement demonstrated the possibility of traversing a different career path than a conventional one which is focused on nurturing elite players during their teen years. Hence, the purpose of this quantitative analysis is to further investigate the relations between a player's first ATP tour victory and his chosen career path.

Having compared the rankings of players according to the age at which each player won their first ATP tournament, the study found that players who claimed their first tour victory at 25 or above do not necessarily rank lower than players who won their first title between 21 and 24. In fact, in most cases, players in the former group even go on to enjoy longer professional lives than those belonging to the latter category. This is primarily due to the fact that the large number of ATP points earned through a tournament victory can propel a player to a much higher ranking, giving him a better place in later competitions as a result of the way the ATP tour is structured.

キーワード：テニス，トップスポーツマネジメント，選手育成，初優勝

Key words：Tennis, Top sports management, Player Development, First Victory

### 1. はじめに

2017年7月1日，トルコのアンタルヤで行われたアンタルヤオープンで，杉田祐一選手が優勝した。世界ランキング66位，28歳にしてのATP ツアー初優勝である。日本人選手でATP ツアー優勝経験者は松岡修造氏，錦織圭選手に次ぐ3人目である。一方で，錦織選手が初タイトルを獲得したのはフロリダ・デルレイビーチにて18歳の時であり，杉田選手の28歳と比較して10歳もの差がある。錦織選手が13歳からフロリダのIMG キャンプに渡ってトップ選手としての育成を受けてきたのに対して，杉田選手は大学に進学した後に世界を転戦し，プロ転向後10年を経てツアー初優勝という結果を残した。このことは，10代からのエリート育成だけに限らないテニス選手

のキャリアパスの多様性を示している。

筆者はこれまで，「早熟型」選手と「晩成型」選手の比較分析をとおして，「早熟型」に有利なATP ツアーの構造を示してきた（坂井，2009）。この圧倒的に「早熟型」に有利な環境の中であって今回の杉田選手のツアー初優勝を果たしたという事実は，筆者が大学でのテニス指導者であることの一つの答えを示してくれたように感じられた。選手がスポンサーなどのステークホルダーに対して自らのランキングの位置づけを定量的に示していくことは重要であり，ランキングの変化を定量化する研究はこれまでも行われてきたが（Reid et al., 2014; Reid and Morris, 2013），ATP ツアー初優勝を基準とした研究は行われていない。そこで，この杉田選手の初優勝がそのキャリアパスにとっていかなる意味を持つのかを明ら

\* 慶應義塾大学体育研究所専任講師

1) Assistant Professor, Institute of Physical Education, Keio University

かにすることが本研究の目的である。そこで、ATP ツアーで初優勝した年齢に着目し、計量的な分析を行った。

## 2. 方法

### 2-1 分析データ

男子プロテニス協会 (Association of Tennis Professionals) が認定した大会である ATP トーナメントは 4 つのレベルに分けられ、そのうち上位 2 つのレベルであるグランドスラム大会とグランプリ大会が ATP ツアーと呼ばれる。その ATP ツアーで優勝した選手で、生年が 1980 年以降のテニス選手 113 人を分析対象とする。分析データは、表 1 に示す項目を、2017 年 7 月 1 日に ATP World Tour のホームページ (<http://www.atpworldtour.com/>) から取得した。

### 2-2 分析の手順

まず ATP ツアー初優勝した際の選手の特性を明らかにするために、初優勝時の年齢、初優勝時のランキングの代表値を求めた。さらに、ツアー初優勝が選手のキャリアパスに及ぼす影響を明らかにするために、初優勝時の年齢別にその後の優勝回数と各年齢時のランキング推移を比較した。

## 3. 結果

### 3-1 初優勝の年齢分布

初優勝した際の年齢の分布を図 1 に示した。横軸は初優勝時の年齢を示し、縦軸は人数を示している。19～24 歳の間に初優勝した選手が多くみられた。中央値は 22 歳であった。

表 1 取得データ

データ名	内 容	対 象
ランキング	1 週間ごとのランキングリスト	1995 年 1 月～2017 年 7 月
選手プロフィール	氏名・生年月日	生年が 1980 年以降で 100 位以内にランクインした選手
選手ごとの優勝情報	大会・年月日・獲得時のランキング	タイトルを獲得した選手

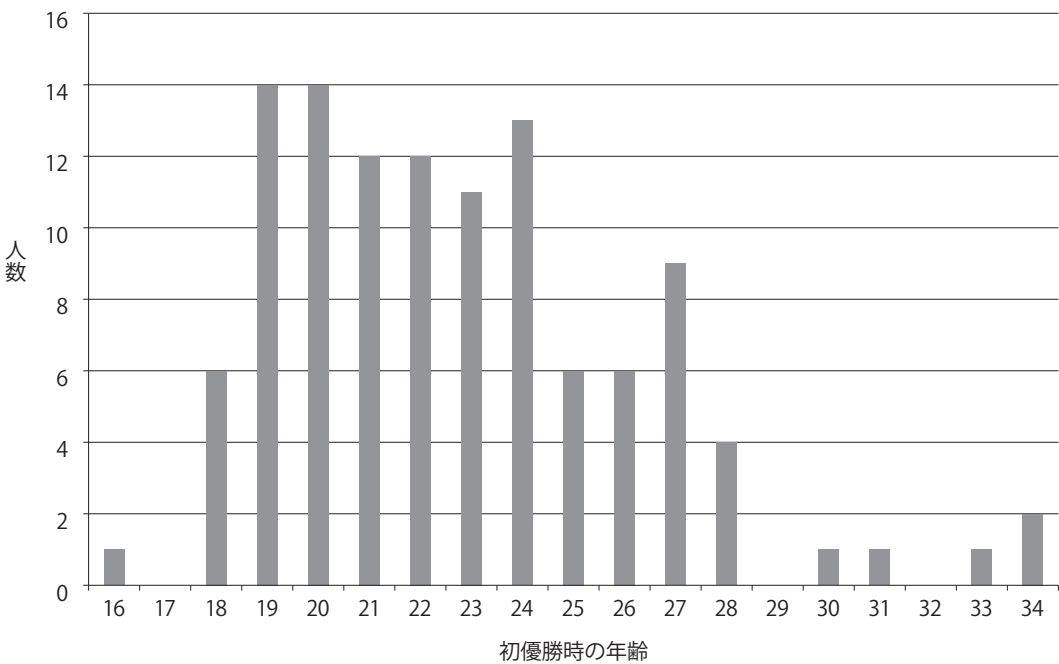


図 1 初優勝時の年齢分布

### 3-2 初優勝時のランキング

#### 3-2-1 初優勝時のランキング分布

初優勝した際のランキングの分布を図2に示した。横軸が初優勝時のランキングを示し、縦軸が人数を示している。61～80位での初優勝が最も多く、中央値は65位であった。

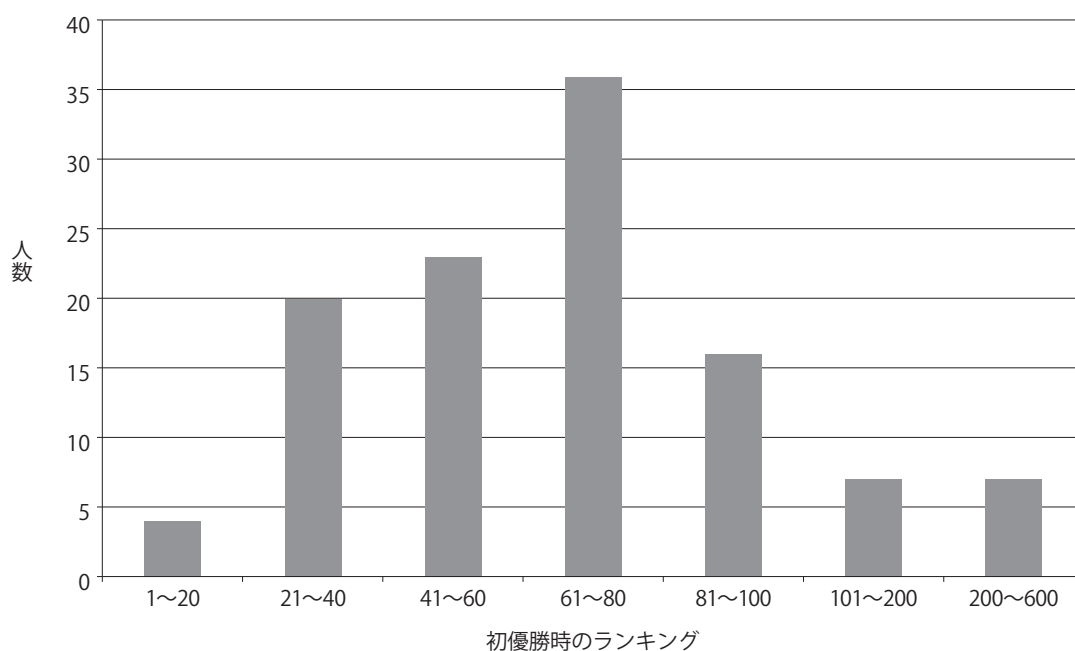


図2 初優勝時のランキング分布

#### 3-2-2 初優勝時の年齢とランキングの相関

初優勝時のランキングと年齢をプロットしたものが図3である。横軸が初優勝時の年齢を示し、縦軸が初優勝時のランキングを示している。相関係数は-0.12でほとんど相関はなかった。

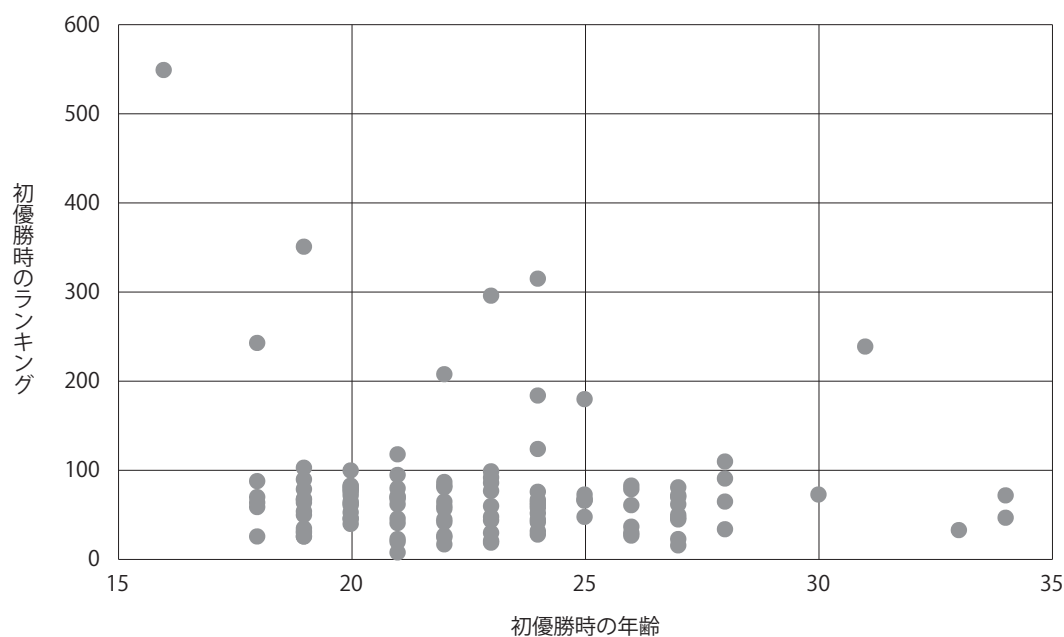


図3 初優勝時の年齢とランキングの散布図

### 3-3 初優勝時の年齢と優勝回数

初優勝時の年齢別に、優勝回数の平均値を求めたものが図4である。横軸が初優勝時の年齢を示し、縦軸が優勝回数の平均値を示している。初優勝時の年齢が20歳以下の選手のみ、優勝回数の平均値が10回を超える。但し、30歳以下の選手は優勝回数が今後大きく増える可能性があるため、生年月日が1987年以前の選手85名に限定して分析を行った。

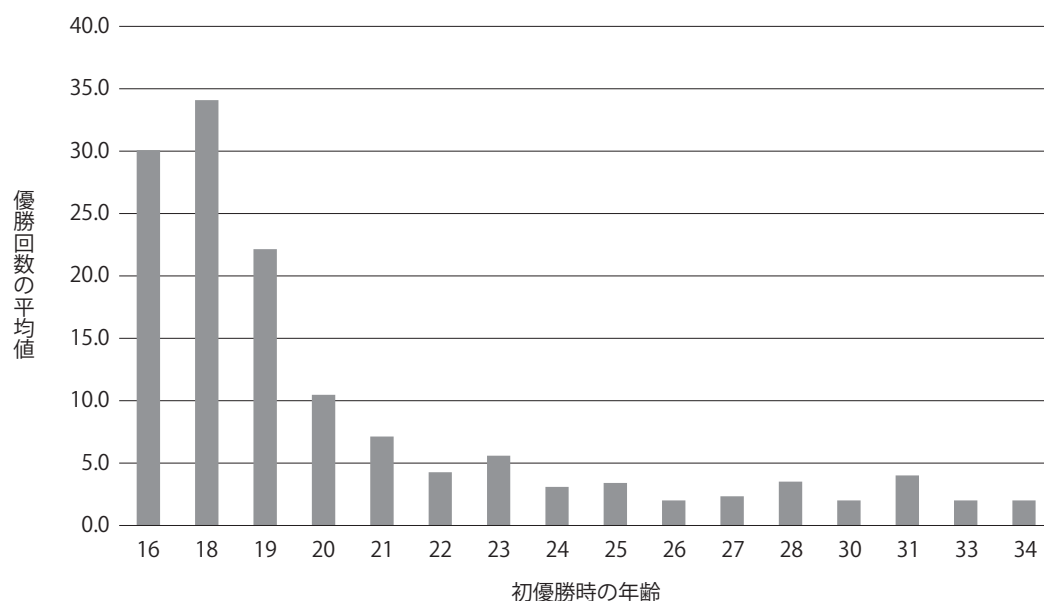


図4 初優勝時の年齢別優勝回数

### 3-4 初優勝年齢グループ別ランキング推移

初優勝時の年齢で選手を20歳以下・21～24歳・25歳以上の3つのグループに分け、各年齢時におけるランキングの中央値を求め、ランキング推移として比較したものが図5である。横軸が年齢、縦軸がランキングを示している。図4において20歳以下の選手の優勝回数が際立って多かったこと、図1において25歳以上になると初優勝する人数が減少することから上記のような区切りを設けた。また、図5と比較するための参考データとして、

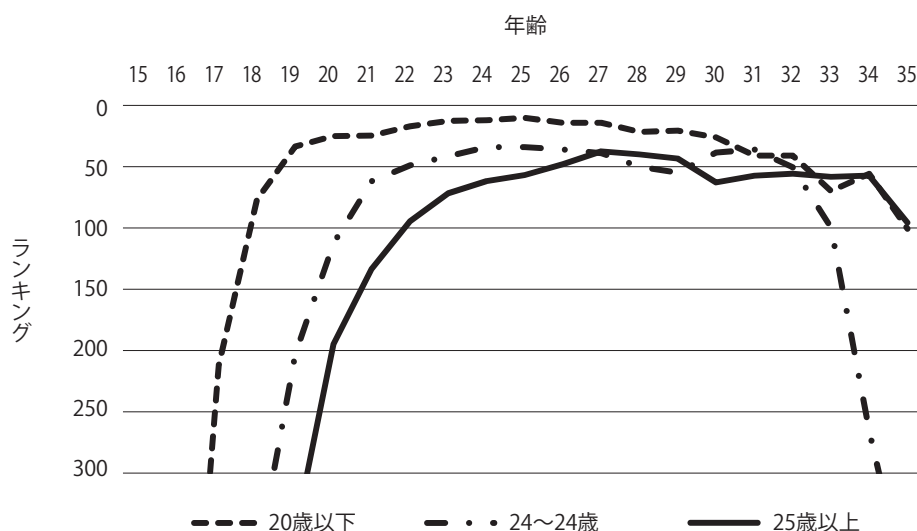


図5 初優勝の年齢グループ別ランキング推移

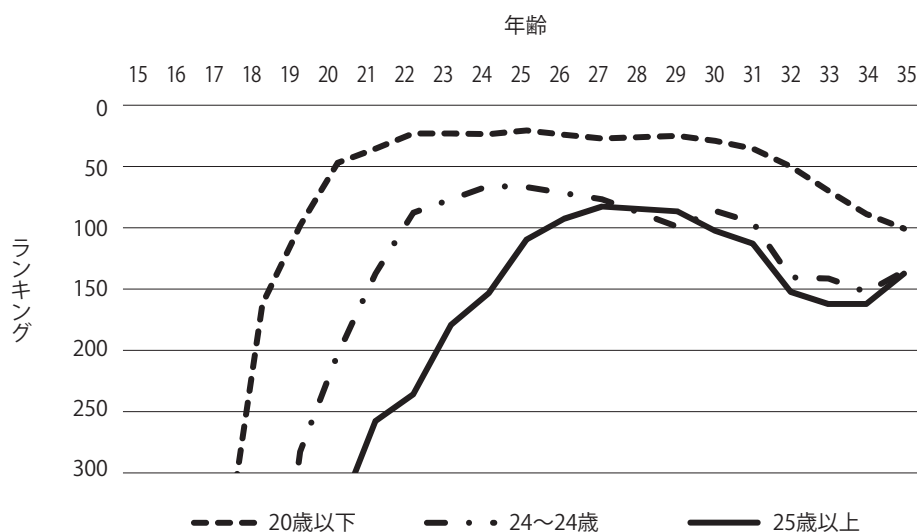


図6 (参考) 100位にランクインした年齢グループ別ランキング推移

100位にランクインした全ての選手268名を対象に、同じ年齢の区切りを採用して、100位到達年齢別のランキング推移を図6に示した。

#### 4. 考察

##### 初優勝時の年齢

図1の年齢分布によると、初優勝の年齢はほとんどの選手が18歳から28歳に属している。この初優勝の最も早いグループに属するのが錦織選手であり、最も遅い28歳のグループに属するのが杉田選手である。

##### 初優勝時のランキング

図2によると初優勝時のランキングの中央値は65位で、89%の選手がランキング100位以内の時に初優勝していることから、ランキング100位にランクインすることよりもツアー優勝の方がより達成することが困難な目標だといえる。

また、図3によると初優勝時の年齢とランキングに相関関係はなかった。特別な才能を持った若手選手が、ランキングが上がりきらないうちにツアー初優勝するようなケースが多いのではないかと予測していたが、そのような例はアデレード・オープンで16歳時に当時550位で初優勝したレイトン・ヒューイット選手のみで、年齢に関わらず100位以内にランキングをあげてから初優勝している。100位以下のランキングで初優勝している選手

も何人か確認できるが、それは若手選手に限定されるような年齢の偏りは見出だせない。100位以内とはATPツアーの本戦から出場でき、資金面でも安定するランキングである(Kovacs et al., 2015)。従って、ツアー初優勝はテニスの実力のみだけでなく、トップ選手としての環境が整った頃に初めて得られるタイトルであるということが可能性として考えられる。

##### 初優勝時の年齢別優勝回数

図4によると、20歳までに初優勝した場合、優勝回数の平均値が10回を超える。一方で、21歳以上で初優勝した場合には優勝回数に大きな差異は見られない。一般的に言えば、初優勝した年齢が低いほど、初優勝以降に出場する大会も多くなるため優勝回数が増えることが予想できる。しかしながら、20歳以前に初優勝した選手の特殊性(極端に多い優勝回数)と比較して、21歳以降に初優勝した選手間には、初優勝時の年齢によって優勝回数に際立った差異があるとはいえない。すなわち、この結果は20歳以下で初優勝した選手の特殊性(特別な才能)と、21歳以上で初優勝した選手の同質性を示していると考えられる。

##### 初優勝年齢グループ別ランキング推移

前述したように21歳以上で初優勝した選手について、早く初優勝した選手ほど優勝回数が増えない理由を探るため、初優勝時の年齢が20歳以下(便宜的にAグループ)

グループとする), 21～24歳 (Bグループ), 25歳以上 (Cグループ) のグループをつくりランキング推移の中央値を比較したのが図5である。Aグループの選手は最高ランキングも高く, 選手キャリアも長い。一方で, BグループとCグループでは, 26歳ごろからランキングが拮抗し, 32歳時点ではそのランキングは逆転し, Cグループの方が長く100位以内に留まっている。このことは, BグループとCグループの差異は, 早熟であるか晩成であるかのみであって, 生涯戦績でみたときにCグループがBグループに劣るものではないことを示している。

筆者がこれまで行ってきたATPツアーの構造分析では, 100位にランクインした年齢(100位到達年齢)が低いほど最高ランキングが高かった(坂井, 2014)。図6では, 100位にランクインした選手を20歳以下 (A'グループ), 21～24歳 (B'グループ), 25歳以上 (C'グループ) というグループに分けて, 100位到達年齢別のランキング推移を求めた。その結果, A'グループの特殊性は図5と同様であるが, B'グループとC'グループは27歳でランキングが拮抗し, 30歳を境に同時にランキングを下降させている。C'グループがB'グループを超えることがないという意味で, 100位到達年齢は低い方がより良い生涯成績を残している。一方で, 先に述べたように, ツアー初優勝を基準とした場合, BグループとCグループの差は早熟か晩成か, という点のみにおいてだけであり, その生涯戦績に優劣はつけられない。以上の結果は, 100位到達年齢を基準としてきたこれまでの分析では見えてこなかった, スロースタートの選手の可能性を示唆している。

## 5. まとめ

ATPツアーのランキングは, 過去1年間に獲得したATPポイントの合計によって決められる。そして, 優勝した際に獲得できるATPポイントは準優勝以下と比較して極めて大きいため, 優勝によってランキングは飛

躍的に上昇する。100位にランクインするというだけではスロースタートであることの壁を乗り越えられないが, ATPツアー優勝という“飛躍”を経ることでスロースタートであることのデメリットを打破し, Bグループの選手と同等な結果が期待できる。筆者はこれまでの研究で, 主催者推薦枠(ワイルドカード)を得やすい早熟な選手が, 主催者推薦枠というチャンスで結果を残すことによりランキングを“飛躍”させ, それに伴う大会本戦からの出場, 有利なドロウ, 強い選手との対戦経験といった要因が好循環をもたらし, 結果的にトップランキングを維持するというATPツアーの構造を明らかにしてきた(坂井, 2014)。そのような構造を前提としたとき, 主催者推薦枠を獲得できずこの好循環から外れてしまった選手が, 自らの実力で勝ち取ることでできるランキングの“飛躍”のチャンスがATPツアーの優勝といえるのではないだろうか。

杉田選手は大学進学後に, 本格的に世界転戦を開始し, 28歳でツアー優勝を果たした。このスロースタートともいえるキャリアパスが, 少なくとも20代前半にツアー優勝を果たしている選手と比較した時に不利に働くものではないということ, より長い選手生命が期待できることを, 本稿の結果は示している。その意味でATPツアーの優勝は「晩成型」の一つの到達点であると同時に, 新たな出発点になり得るチャンスである。そしてそれは主催者推薦枠のように第三者から与えられるものではなく, 自らの力で勝ち取ることができるチャンスであるという事実は, 「早熟型」にはなり得なかった選手たちにも大きな希望を与えてくれるはずである(Locke and Latham, 1985)。

今後の展望としては, 特にCグループの選手が初優勝に至るまでの, 出場大会・ランキング推移を追うことによって, 日本人選手に多い晩成型選手がツアー優勝を果たすための一助となるような研究を行っていきたい。

表2 ATPツアーのポイント一覧

ATP ツアー	優勝	準優勝	SF	QF	R16	R32	R64	R128	予選
Grand Slams	2000	1200	720	360	180	90	45	10	25
ATP World Tour Masters 1000	1000	600	360	180	90	45	10		25
ATP 500	500	300	180	90	45	20			20
ATP 250	250	150	90	45	20	5			12

## 参考文献

- ATP World Tour (2017) Rankings FAQ.  
<http://www.atpworldtour.com/Rankings/RankingsFAQ.aspx> (accessed 2017-8-22).
- Kovacs, M. S., Mundie, E., Eng, D., Bramblett, J., Kovacs, M.J. and Hosek, R. (2015) How did the top 100 professional tennis players (ATP) succeed: an analysis of ranking milestones. *J Med Sci Tennis*, 20 : 50-57.
- Locke, E. and Latham, G. (1985) The application of goal setting to sports. *Journal of Sport Psychology*, 7(3) : 205-222.
- Reid, M., Morgan, S., Churchill, T. and Bane, M. K. (2014) Rankings in professional men's tennis: a rich but underutilized source of information. *Journal of Sports Sciences*, 32(10) : 986-992.
- Reid, M. and Morris, C. (2013) Ranking benchmarks of top 100 players in men's professional tennis. *European Journal of Sport Science*, 13(4) : 350-355.
- 坂井利彰 (2009) トップテニスプレイヤーにおける「早熟型」と「晩成型」の比較分析. *SFC JOURNAL*, 9(2) : 101-112.
- 坂井利彰 (2014) 世界における男子プロテニス界の構造と日本人選手の強化策. 慶應義塾大学 博士論文

(受付：2017年9月7日，受理：2017年11月1日)